

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

内容報告書

団体名：特定非営利活動法人シェイクハンズ

1. 事業の概要

事業名称	日本語教育×子育て支援のWネットワークづくり
事業の目的	尾張北部3市2町での日本語教育機関で培ってきたネットワークを横軸に、28年度は、外国人生活者の日本での子育てや教育環境向上のため、子育て支援NPO・支援者等、多分野とのネットワークづくりを推し進めた。しかし、温度差があり、他分野・自治体等の理解が薄く、ネットワークにまで至らないエリアもある。特にそのエリアで教室を開催し、「生活者としての外国人のための日本語教育」を拡充する。また、自治体との連携も強化し、尾張北部地域の多文化共生の子育て支援ネットワーク構築にいつそう努める。
日本語教育活動に関する地域の 実情・課題	自治体等でさまざまな子育て支援が実施されているなか、犬山市では子育て教室に、現在まで外国人家庭の参加ははゼロ件で、尾張北部地域でも、外国人の参加を想定した子育て教室設置がなされていない。また、保護者の日本語習得が十分でない家庭の子育て・教育・学習環境は問題があり、それによって子どもの将来が左右されるので、日本語学習を通じた外国人家庭の子育て支援と教育環境づくりのサポートが必要不可欠と考え、28年度から「子育て支援」「子育て支援のためのネットワークづくり」を進めてきた。しかしながら、小牧市を除く自治体の理解が薄く、このエリアでの担当課等との協働による場づくりが、特に必要と考える。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	取組1. 子育て支援団体とのネットワークをさらに尾張北部全体に広げるために、会議のなかで研修や先進地等との意見交換も企画し、日本語教室が各市町の子育て支援団体や自治体と繋がっていきけるよう、さらに推し進めた。 取組2. 子育てや教育を中心に学ぶ「生活に必要な日本語教室」を尾張北部地域でシリーズ開催し、生活者に必要な日本語の向上に努めた。 取組3. 「ネットワークによる多文化共生の地域づくり」を中心にした啓発の場をつくり、文化庁事業での先進地事例やこの地域での取り組みを発表すると共に、特に地域の自治体に多文化共生の子育て・多分野による連携の必要性をアピールした。 取組4. 「日本語活動実践者のための研修会」を実施し、「生活者としての外国人」のための教室活動実践者のスキルアップを図った。
事業の実施期間	平成 29年 6月～平成 30年 3月 (10 か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	川島紀之	犬山市民活動支援センターの会
2	栗木梨恵	(一財)愛知県国際交流協会
3	米勢治子	東海日本語ネットワーク
4	松本一子	東海日本語ネットワーク
5	土井佳彦	(特活)多文化共生リソースセンター東海
6	大橋充人	愛知県多文化共生推進室
7	鈴木伸太郎	犬山市議会
8	平井佳子	犬山市役所観光交流会
9	原 正男	犬山ロータリークラブ
10	松本里美	(特活)シェイクハンズ

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年6月28日 18:30～20:30	2時間	寺子屋シェイクハンズ	川島、米勢、土井、松本一、松本、大橋、鈴木、平井、原(遅刻)	1. 事業の内容検討と実施時期 2. 運営委員会実施時期の検討
2	平成29年11月26日 10:00～12:00	2時間	寺子屋シェイクハンズ	川島、米勢、松本一、原、松本、鈴木(謝金辞退)、平井(謝金辞退)	1. フォラムの進捗状況報告 2. 事業・主に教室の進捗状況と後半の事業展開
3	平成30年1月23日 18:00～21:00	3時間	寺子屋シェイクハンズ	川島、米勢、土井、松本一、原、松本里、大橋(謝金辞退)鈴木(辞退)、平井(辞退)	1. 今年度事業の進捗と、振り返り。 2. 来年度事業について
4					

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<p>○愛知県国際交流協会:愛知県域の国際交流機関への本事業の告知・広報。啓発事業の後援。運営委員として参加。</p> <p>○愛知県多文化共生推進室:愛知県域の行政関係機関への本事業への告知、啓発事業等の後援。運営委員として参加。</p> <p>○犬山市観光交流課:多文化共生関連部局、への本事業周知と、当該地域コミュニティへの外国人参加の促進。</p> <p>○犬山市民活動支援センター:市民活動団体との連携への折衝、協力要請。犬山市と近郊の行政・教育委員会への協力要請と折衝。</p> <p>○犬山市・江南市・大口町・扶桑町・小牧市各多文化共生担当課、保育・子ども支援担当課、:在園外国人の状況の共有と、家庭への情報伝達。日本語教室等への外国人の参加要請等。○大口町まかせてネット。:町内活動団体への広報。○犬山ロータリー倶楽部:会員向け事業周知・一部協賛。</p> <p>○犬山市保健センター:外国人家庭の情報共有、支援を必要とする家庭への直接的アプローチ、日本語教室の地域講師。</p>
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	<p>松本里美:全ての取組に対し、地域日本語教育コーディネータとして業務を行う。特に取組1ではネットワーク会議の企画・運営。取組2、3では、協力団体との調整業務。</p> <p>米勢治子:全ての取組に対し、助言等を行う。特に取組2では企画・助言。取組4では企画・コーディネート。</p> <p>土井佳彦:取組3の企画・コーディネート、当日の担当。取組1での交流会コーディネート他。多文化共生リソースの提供。</p> <p>齋藤千春:取組2の中心的な指導者として、カリキュラム案に基づき、日本語教室を担当。</p> <p>早瀬裕子:取組2の江南・大口での中心的指導者として、カリキュラム案に基づき、日本語教室を担当。</p>
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞										
取組1	取組の名称	多文化共生の子育て支援を中心にしたネットワーク会議								
	取組の目標	尾張北部の生活者としての外国人の保護者等が、日本での子育ての不安を除け、子どもの教育を含む子育て環境の充実が図れるようにするために、尾張北部地域の関係団体のみでなく、子育て支援団体も含め、ネットワークを組み、カリキュラム案を生かした教室運営・支援活動などができるよう、支援体制の構築を目指す。								
	取組の内容	文化庁事業で構築した尾張北部の日本語教育機関・外国人支援機関のネットワークを基に、外国人住民に対する子育て支援策・保護者の日本語習得の必要性のために、特に行政課との協議を意識し開催。また、テーマ別の会合も含め、地域の多文化共生の子育て支援ネットワークづくりの強化ができた。特に今年度は、ネットワークによる子育て支援の日本語教室を文化庁事業で展開している先進団体、NPO法人「にほんご豊岡あいうえお」との意見交換会を、また、より強く子育て支援ができるよう、松本一子氏による研修も会議の中で、位置づけ、実施した。								
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備	ネットワークを結ぶ尾張北部の各団体の日本語教室が、「カリキュラム案」の理念を教室運営に生かせるように、協議を重ねてきたが、「子育て支援とその人材づくり」というテーマにおいても、より一層の協議と情報共有ができ、「生活者としての外国人のための子育て支援」等、日本語教室運営や内容が、より充実するよう整備できた。また、会議の新たな参加者(小牧在住の中国人キーパーソン)が、多文化共生・外国人の子育て支援について理解し、次年度からネットワークでの事業参加を希望した。								
	取組による日本語能力の向上	日本語指導は行わないが、外国人自助組織・キーパーソン的な外国人が参加する事により、自身や子育て家庭のニーズをつかみ、それを話すことにより、日本語習得が進んだ。								
	参加対象者	尾張北部地域の日本語教育組織と子育て支援・教育関係の団体や行政、子育て中の外国人、外国人キーマン。	参加者数 (内 外国人数)	23 (4 人)						
	広報及び募集方法	各市町の国際交流協会、各日本語教育組織、市町村の子育て支援・教育の担当課を通じて行った。								
	開催時間数	総時間 27.5 時間(空白地域 時間)								
	主な連携・協働先	愛知県国際交流協会、愛知県多文化共生推進室、尾張北部2市2町のNPO担当課、子育て支援担当課、保健センター。大山市民活動支援センター、まちネット大口。日本語教育機関。NPO法人子どもと文化の森、ふくらの家。								
参加者の出身・国別内訳(人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル		
	2								1	
ペルー 1人、日本 19人										
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名		
1	平成29年7月7日 18:30～21:00	2.5	寺子屋シェイクハンス	20	事業の目的共有	①関係団体の活動紹介②現時点での事業展開についての説明③目的と課題	川島、米勢、土井、松本、木澤、辻、前田、大橋、早瀬、森川、角田、齋藤、丹羽、西部、高木、岩根、河村、後藤、留、エドナ土田	齋藤輝幸		
2	平成29年7月26日 18:30～21:00	2.5	大口町健康センター	8	日本語教室の実態共有	「生活者としての外国人」のための日本語教室の開催に向けて。実施地域の調整等	松本、齋藤千土田、西部、米勢、後藤、早瀬、森川	松本晃		
3	平成29年8月23日 18:30～21:00	2.5	寺子屋シェイクハンス	17	今年度の多文化共生フォーラムに向けて	1.今年度文化庁事業とこれまでの報告 2.今年度フォーラム(取り組み3)について(日時・会場・テーマ?)	川島、米勢、土井、松本、木澤、辻、前田、大橋、平井、鈴木、齋藤、丹羽、高木、土田、河村、留、エドナ西部	齋藤輝幸		
4	平成29年9月13日 18:30～21:00	2.5	寺子屋シェイクハンス	17	今年度フォーラムに向けて	1.これまでの事業報告 2.豊岡研修会の報告 3.多文化共生フォーラムについて(対象・内容の決定。広報について等)	川島、松本、前田、高木、齋藤千、大橋土田、西部、米勢、後藤、早瀬、木澤、辻、河村、岩根、土井、劉	齋藤輝幸		
5	平成29年10月17日 18:30～21:00	2.5	寺子屋シェイクハンス	20	今年度フォーラムに向けて	1.具体的なプログラムの決定 2.役割分担 3.資料・参加者・後援など 4.周知・参加要請など	川島、米勢、土井、松本、木澤、辻、前田、大橋、平井、早瀬、森川、角田、齋藤、丹羽西部、岩根、河村、土田、後藤、留、エドナ	齋藤輝幸		

6	平成29年11月17日 18:30~21:00	2.5	寺子屋シェイクハンズ	18	今年度フォーラムにむけて	1.役割分担の確認 2.直前確認事項 3.印刷物について 4.参加見込み	川島、松本、木澤、辻、前田、大橋、平井、早瀬、森川、角田、齋藤、丹羽、西部、高木、岩根、河村、土田、後藤、留、エドナ、清水(李)	松本晃
7	平成29年11月25日 13:30~16:00	2.5	寺子屋シェイクハンズ	14	「にほんご豊岡あいうえお」との意見交換会	1.「にほんご豊岡あいうえお」の子育てネットワーク 2.フォーラムでの事例発表に向けて	川島、松本、木澤、前田、大橋、平井、早瀬、齋藤、西部、高木、岩根、河村、土田、後藤、河本、岸田、勝間	松本晃
8	平成29年12月13日 18:30~21:00	2.5	寺子屋シェイクハンズ	19	フォーラムの振り返り	1.多文化共生フォーラムの振り返り(ワークショップ)	川島、米勢、土井、松本、木澤、前田、大橋、平井、鈴木、早瀬、齋藤、丹羽、西部、高木、岩根、河村、清水、高木、土田、エドナ、	松本晃
9	平成30年1月17日 18:30~21:00	2.5	寺子屋シェイクハンズ	18	教室の進捗「ネットワーク会議」について	1.次年度文化庁事業への継続確認 2.今年度の進捗状況	川島、米勢、土井、松本、木澤、辻、前田、大橋、平井、早瀬、森川、角田、齋藤、西部、高木、岩根、河村、清水、劉、エドナ	齋藤輝幸
10	平成30年2月8日 18:30~21:00	2.5	寺子屋シェイクハンズ	19	ミニ研修「日本語支援が必要な子どもが日本一多い愛知県の子どもたちの状況」	1.次年度文化庁事業の申請内容の報告 2.ミニ研修会(講師:松本一子先生)	川島、米勢、松本、木澤、辻、前田、大橋、平井、早瀬、森川、角田、齋藤、丹羽、西部、高木、岩根、河村、鈴木、劉、エドナ、岩根	齋藤輝幸
11	平成30年3月14日 18:30~21:00	2.5	寺子屋シェイクハンズ	18	振り返りと次年度へむけて	1.ネットワーク会議の振り返り 2.事業全般について	川島、米勢、松本、木澤、辻、前田、大橋、平井、鈴木、早瀬、森川、角田、齋藤、丹羽、高木、河村、後藤、劉、岩根	齋藤輝幸 松本晃

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 29年7月7日】

第1回目ネットワーク会議なので、出席者が自己紹介。
その後、今年度の事業説明をし、運営委員会を受けて、各取組ごとの時期・会場等の検討に入った。
昨年度の振り返りをもとに、行政・子育て関係団体とのネットワークづくりに向けた協議をした。
また、日本語教室の新規開設を巡って、日本語教室関係者のみの会議の提案がされ、時期が決定した。



○取組事例②

【第5回 29年2月8日】

・来年度以降の事業を見据え「子育て支援」の継続を目指して、子育て応援のネットワークの拡充を図るために、多文化の子ども達の現状を理解する研修会を行った。
・「日本語支援を必要とされる子どもが日本一多い愛知県の子どもたちの状況」を知ってもらう為、ネットワーク会議参加者のみに留まらず、近隣の関係団体にも声掛けした結果、国際交流協会などから、会長はじめ、関係者が参加して頂けた。



(2) 目標の達成状況・成果

・尾張北部地域の関係団体のみでなく、子育て支援団体も含めたネットワークが組めたことで、日本での子育てをしている親子が少しでも安心して暮らせる環境づくりが進んだ。
・各団体が情報共有を密にすることで、支援体制の構築の必要性をアピールできた。カリキュラム案を利用した教室が大口町・小牧市で初めて開催できる運びとなった。
・「生活者として必要な日本語」の習得の必要背が、また「子育て中の外国人が必要としている教室」の存在を日本人住民に少しずつ、周知できた。

(3) 今後の改善点について

今年度の振り返りの意見から

・事業の進捗に合わせた議論の場として有効だが、ネットワークが広がって来るにしたがって参加人数も多く、分野別の会議・テーマ等が数回あっても良いのでは？
・また、次回の予定(内容・テーマなど)の詳細が予めわかっていると、良い議論ができる。
・全員が揃う事がなかなか、難しく、代表者ばかりでなく、会としての出席とさせてほしい。
・2市2町ばかりでなく、今年度のような 他市町の取組を紹介できる場が定期的に設けられると、いい会議になるのでは。

<取組2-1>

取組2	取組の名称		子育てや生活に必要な日本語教室「地域の人と楽しく交流しながら日本のルールを覚えましょう！」							
	取組の目標		各市町の外国人の実情に合わせた、子育てを支援する日本語や、生活者としての外国人にとって必要な日本語教室を少なくとも3地域で協働開催し、①尾張北部地域に住む外国人が住みやすい環境をつくる。②子育て支援をはじめとする多分野の団体と新しく繋がることで、多文化共生の地域づくりを推進する。 <VOL1の目的>: 犬山市内中心部で急増した外国人に、地域住民と交流しながらごみ出し等のルールを理解してもらい、互いに住みやすい環境をつくる。【ごみ分別問題、交通ルールを守らない等課題解決のため、顔の見える関係性を作り、ルール共有をする。】							
	取組の内容		①愛知県尾張北部地域でネットワークを組んだ団体が、カリキュラム案を活用し、各団体のエリアで、子育て支援教室や生活者としての外国人が必要な日本語教室を開催した。犬山(2か所、一部小牧)・大口・江南で開催。 ②勤務等の変化により、複数に渡る教室に参加をするこの地域の特性を生かし、各市町の状況に応じた個別のプログラムに加えて、合同で教室外活動や体験を用意するなど工夫した。 ③できる限り託児を設け、学習しやすい環境をつかった。 <VOL1> 1回目: 災害時、どうしたら良いか、知っていますか? 2回目: 火事や事故の時、どうしたら良いか? 3回目: 正しいゴミの出し方 4回目: ごみの出し方やルールを守っていらっしゃいますか?							
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備		ネットワークを結ぶ尾張北部の各団体の日本語教室が、「カリキュラム案」の理念を教室運営に生かせるように、協議を重ねてきたが、「子育て支援とその人材づくり」というテーマにおいても、より一層の協議と情報共有ができ、「生活者としての外国人のための子育て支援」等、日本語教室運営や内容が、より充実するよう整備できた。また、会議の新たな参加者が、多文化共生・外国人の子育てについて理解し、協力者となり、他の組織等への派生効果もあった。							
	取組による日本語能力の向上		日本語指導は行わないが、外国人自助組織・キーパーソン的な外国人が参加する事により、自身や子育て家庭のニーズをつかみ、それを話すことにより、日本語習得のステージが上がった。							
	参加対象者		尾張北部地域の日本語教育組織と子育て支援・教育関係の団体や行政、子育て中の外国人、外国人キーマン。							
	広報及び募集方法		各市町の国際交流協会、各日本語教育組織、市町村の子育て支援・教育の担当課を通じて。							
	開催時間数		総時間 9.5 時間(空白地域時間)	参加者数 22人(内外国人 16人)						
	主な連携・協働先		犬山警察署、名古屋経済大学国際交流室、名古屋教育学院、北のまちづくり推進協議会、民生委員							
参加者の出身・国別内訳(人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
		2	9			2			1	
		ペルー(3人)、日本(6人)								
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名		
1	平成29年10月7日(土) 14:00~16:00	2	犬山市福祉会館	7	災害時、どうしたら良いか、知っていますか?	災害時に、自分の安全を守る方法や、避難場所を確認。自分の住むエリアの日本人に教えて貰いながら、交流	松本晃 斎藤輝幸 松本里美	齋藤千春 通訳: 森川パ とロシア 奥崎(犬山警察署)		
2	平成29年10月14日(土) 14:00~16:00	2	犬山市福祉会館	12	火事や事故の時、どうしたら良いか、知っていますか?	特に火事と交通事故について、どうしたら良いかを具体的に考え、通報の仕方とも体験する。	松本晃 斎藤輝幸 松本里美	齋藤千春 通訳: 森川パ とロシア 奥崎(犬山警察署)		
3	平成29年10月28日(土) 13:30~16:00	2.5	犬山市福祉会館	8	正しいゴミの出し方、知っていますか?	正しいゴミの出し方を覚える。自分の母国と違っている点を挙げ、なぜ? そうなのか皆で考える。	齋藤千春 松本晃 松本里美	齋藤輝幸 通訳: 森川パ とロシア		
4	平成30年1月8日(祝) 17:00~20:00	3	犬山市民活動支援センター	16	ゴミの出し方やルールを守って生活していますか?	前回覚えたルールで、2ヶ月を生活したか? 自分で検証する。また、難しい分別を皆で共有する。ゲームで確認する。	齋藤千春 松本晃 松本里美	齋藤輝幸 通訳: 森川パ とロシア		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 29年10月28日】

1. 日本語で自己紹介
2. 日本でのゴミの出し方で、困っていることなどを話し合う。
3. 国別に、自分の母国でのゴミの捨て方を発表。
4. 母国のルールと違っている点を挙げ、なぜそうなのかをグループで考える。
皆で考える。
5. 今日の教室で、わかったこと、覚えたことを発表する。



○取組事例②

【第4回 30年1月8日】

- ①自己紹介
- ②1回目～3回目までの言葉やルールを振り返った。
- ③振り返りのなかで、前回の教室からの約2ヶ月間に、特にルールが多いゴミの分別をどこまで理解でき守れているか、を検証するゲームを実施
- ④官界のテーマに限らず、困っていることや教えてほしいことを話し合い、地域の人と交流した。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・最近、アジアの人が急増している城下町エリアでの初めての教室開催だったが、留学生や実習生の多くは、生活者としての意識が薄く、災害や事故・ゴミ出しの情報などは、大まかに知ってはいるものの、重要視していないことが分かった。また、一方、住民側は、自分の町内でのマナーやゴミ分別にキッチンと対応してほしいと、願っているが、伝える言語もすべもなく、町会長からの行政頼みとなっている状況。
- ・3回の教室を受けて、ゴミ分別は、かなりの理解が進み、「ルールを知り守る」意識が向上した外国人がほとんどだった(分別ゲームの結果より)
- ・今回の教室が「直接、外国人に伝えられる場」として、また、日本人住民が外国人の事情を知る場として、民生委員が出席してくれた意義は大きく、今後へ向けて繋がりを感じた。(地域の民生委員2名の出席により交流会により、双方の意見を交換・共有できる一歩となった)
- ・犬山署・名古屋経済大学などの協力が得られ、今後の教室活動にも参加してもらえる見通しとなった。
- ・アンケートの結果、全員が日本語の上達と今後の日本語学習を望んでいるが、「日本人と仲良くなりたい」の理由が一番に挙げられている。

(3) 今後の改善点について

- ・日本人の参加が少なく、民生委員や地元住民へのアプローチの仕方に、工夫が必要。行政機関に依頼しただけでは参加が望めず、カリキュラム案に基づいて手作りの教材・資料をつくったが、留学生と長く日本にいる外国人の日本語力の差が大きいため、資料にもっと工夫が必要と感じた。
- ・3回目と4回目の期間が長すぎて、振り返りに時間がかかりすぎてしまった。

<取組2-2>

取組2	取組の名称		子育てや生活に必要な日本語教室2「にじいろ子育て応援教室」						
	取組の目標		各市町の外国人の実情に合わせた、子育てを支援する日本語や、生活者としての外国人にとって必要な日本語教室を少なくとも3地域で協働開催し、①尾張北部地域に住む外国人が住みやすい環境をつくる。②子育て支援をはじめとする多分野の団体と新しく繋がることで、多文化共生の地域づくりを推進する。<VOL2の目的: 困り事を一つでも解消し、日本での子育てが少しでも楽になるよう、応援する。また、外国人・日本人を問わず、子育て世代が仲良くなる事を目指し、教室運営でも様々な団体が協力できる事を目指す>						
	取組の内容		①愛知県尾張北部地域でネットワークを組んだ団体が、カリキュラム案を活用し、各団体のエリアで、子育て支援教室や生活者としての外国人が必要な日本語教室を開催した。 ②各市町の外国人の状況に応じたプログラムを実施、教室外活動や体験を取り入れた。 ③一昨年度、昨年度の事業で学んだポートフォリオや日本語能力評価を取り入れ、成果をアピールしやすい工夫。 ④犬山では全回、江南でもできる限り託児を設け、子育て中の世代が参加しやすい工夫をした。						
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		①尾張北部5つの各日本語教育機関が、カリキュラム案を活用し、子育て支援をはじめ、生活に役に立つ日本語教育プログラムが組め、指導できるようになった。昨年度に加えて、今年度、大口で初めての開催ができた。(指導者が取組4に参加することで、いっそう、進んだ)。また、次年度を見据え、小牧市の会場でも初めて「生活者としての外国人のための日本語教室」を実施でき、外国人自助グループとも新しい連携に向けて、準備ができた。 ②「子育て」や「防災」などをキーワードに、仲間が集い、情報交換・共有することで、仲間意識が形成され、不安を安らげる場、共助の関係性ができ、ひいては地域で暮らす日本人との日常的共助の構築を目指した。これらのNWの広がりにより新たな学習者の参入があった。 ③新しい団体とのネットワーク構築ができた。特に、子育て支援の教室については、小牧市の中国人を中心とするグループと、また、保健センターとは、いっそう密接な関係性ができ、大学のゼミともプログラムを、合同で企画することができるようになった。						
	取組による日本語能力の向上		①各学習者の発語が増えるよう、グループワークを多く取り入れ、日本語の向上に努めた。また、毎回、振り返りシートやはがき記入で、漢字も身に付いた。 ②地域の日本人と、顔の見える関係になり、日本語教室以外の場所でも、会話ができるようになり、日本語能力が向上した。 ③日本語が理解できる事で、より地域の行事などに興味がわき、日本語学習へのモチベーションが上がり、能力向上につながった。						
	参加対象者		尾張北部地域等に住む外国人、日本人	参加者数 (内 外国人数)		32人 32			
	広報及び募集方法		各日本語教室、国際交流協会、保健センター、病院等にポスターやちらし配布。保育園・幼稚園でのちらし配布。						
	開催時間数		総時間 25.5 時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		犬山市子ども未来課、犬山市保健センター、犬山市民活動支援センター託児グループ「てんとうむし」、犬山警察署、愛知淑徳大学小島ゼミ(小島祥美准教授)						
参加者の出身・国別内訳(人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		19				2			2
		ペルー(6人)、ボリビア(1人)、ロシア(2人)、日本(4)							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名	
1	平成29年10月15日(日) 13:30~16:00	2.5	楽田ふれあいセンター	11	いろんな国の遊びをして、友達になろう!	①自己紹介②ペルーの遊び、各国のじゃんけん等を楽しむ③子どもや子育てで、こまっていること等を話し合い、専門家からもアドバイスをもらう	齋藤千春 松本里美 松本晃 地域講師: 高木光子 木澤和子	齋藤輝幸 通訳: 森川パトリシア 託児: 河村礼子 新見優	
2	平成29年11月19日(日) 10:30~14:00	3.5	楽田ふれあいセンター	15	親子DE ハッピークッキング	親子でクリスマス料理をつくりながら、調理等に使う日本語を覚え、家族の事やXmasの過ごし方などを紹介しよう。	齋藤千春 松本里美 松本晃 講師: 近藤真由美	齋藤輝幸 通訳: 森川 託児: 河村礼子 河村光恵 松山清子 新美優	
3	平成29年12月17日(日) 10:30~13:00	2.5	寺子屋シェイクハンズ	9	病気と予防	乳幼児がかかりやすい病気の事、その予防や予防接種などについて、保健師から学ぶ。病気の名まえや受けなければいけない予防接種を覚える。不安や予防、病気の時の過ごし方(出席停止等)をグループワークする。	齋藤千春 齋藤輝幸 松本晃 保健師: 中山あかね	松本里美 通訳: 森川 託児: 河村礼子 河村光恵	
4	平成29年12月23日(祝) 10:00~13:00	3	犬山市民活動支援センター 犬山市福祉会館	15	地域行事に参加しよう	犬山市民活動支援センターの餅つきに参加、地域のひとと、交流する。伝統行事を共にについて、けんする。	齋藤千春 齋藤輝幸 松本晃	松本里美 通訳: 森川 託児: 柴田恵津子、河村光恵 松山清子	

5	平成30年1月14日 (日) 10:30~13:00	2.5	寺子屋シェイク クハNZ	11	子どもを危険から守 ろう	災害や事故から子どもを守るために、 遭ってしまったらどうするか、を警察よ り聞き、 対策を考える。自分達でできる事も考 えて、発表する。	齋藤千春 齋藤輝幸 松本 晃 警部補:奥崎慶 太	松本里美 通訳:森川 託児:柴田恵津 子
6	平成30年2月11日 (祝) 13:30~17:00	3.5	小牧市まなび 創造館	19	子どもの好きな日本 食をつくろう	簡単にできる子どもの好きな料理づく りを通して、手作りおやつの大切さや 料理の名まえ等を学ぶ	松本里美 やさしい華の会 (清水久美子、張 花)	やさしい華の会 (王玉紅) 通訳:劉小紅 託児:大島かお り、山田寿枝 河村礼子、 高木光子
7	平成30年2月25日 (日) 10:30~14:30	4	寺子屋シェイク クハNZ	19	日本の学校を知ろう	就学を前に、日本の学校や教育シス テムを学び。午前は主に小学校、午 後からじゃ、主に中学校以上、進学 のための費用等も学ぶ。給食体験もし、 意義も伝える。	齋藤千春 松本里美 松本 晃 講義補助: 小島祥美 先名勇士 丸山佳菜 太田梨理香	長谷川弘樹 通訳:森川 エドナデグズ マン、齋藤輝 幸、託児:柴田 恵津子、松山清 子、 河村光恵
8	平成30年3月4日 (日) 10:30~15:00	4	楽田ふれあい センター	15	親子 DE ハッピー クッキング2	朝ごはんの大切さと歯の健康を知ろ う! 「元気の源、ワンだふる朝ごはん」	齋藤千春 松本里美 松本晃 保健師:岩見: 歯科衛生士: 井上	通約:森川 齋藤輝 託児:柴田 河村礼子 河村光子

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 29年12月17日】

・犬山市保健センターより、保健師を招いての病気と予防についての学習。(ひらがな中心のパワーポイントで、わかりやす作成)

- ①病気について、うつる病気とうつらない病気の把握。それによって学校・保育園などの出席停止のことばと理解。
- ②定期接種と任意接種の意味や大切さ。
- ③予防接種以外の有効な予防方法などを紹介
- ④習ったことの確認、もっと知りたいことや、病気の事で困っていることなどをグループワークで。
乳幼児を抱える保護者にはとても重要なテーマだが、料理等と比べると、難しく感じるのか、参加が少なかった。
一方参加者は、とても熱心に詳しく質問したり、母子手帳を持参した参加者が2人。



○取組事例②

小学校入学を前に、日本の学校や教育システムを 映像やロールプレイなどで楽しく学習。

- ①「日本の小学校って、どんなところ？」を大学生がロールプレイで行い、学校で使われることばや集団での登下校、持ち物、などを学習した。
- ②学校への持ち物や病欠の時の連絡など、ゲームで楽しく学んだ。
- ③給食体験 (給食の意義や栄養)
- ④中学校以後のこと。中学校、高校・大学への進学の方法と費用について
(参加者は午前のみ、午後をみの選択の人が多く、終日参加は、5人にとどまった)



(2) 目標の達成状況・成果

- ・参加者のうち、外国人の100%が、「日本での生活が前よりできるようになったと答え、なお「もっと日本語が勉強したい」と意欲的であった。子育てに必要な情報が少ないこと、不安な事が多いのが伺えた。
- ・日本人家庭が参加したことで、特に同じ保育園の親同士が助けあう姿が見られるなど、子育て中の親同士の仲間意識が芽生えつつあり、今後の広がりに期待できる。
- ・日本語教室のチラシを全保育園に配布できたこと、日本人が参加したことで、日本人に「生活者としての外国人」の存在と日本人も含めた「多文化共生の日本語教室」存在のアピールができた。
- ・昨年よりネットワークに加わった子育ての専門家と共に教室運営ができ、多彩なプログラムが組めた。
- ・一部を小牧市内の施設で初めて行った事で、ネットワークに参加希望の団体を知り、次年度の教室開催へ向けて、進める事ができた。

(3) 今後の改善点について

- ・イベント的な要素のものには比較的多くの学習者が参加する傾向にあるが、防災や病気などの会には、参加が少ない現状に向け、もっと多くが参加できるよう、子どもと共に過ごし・学べるよう、プログラムに工夫をする必要がある。

<取組2-3>

取組2	取組の名称		子育てや生活に必要な日本語教室3 子育て応援「親子でハッピータイム」						
	取組の目標		各市町の外国人の実情に合わせた、子育てを支援する日本語や、生活者としての外国人にとって必要な日本語教室を少なくとも3地域で協働開催し、①尾張北部地域に住む外国人が住みやすい環境をつくる。②子育て支援をはじめとする多分野の団体と新しく繋がることで、多文化共生の地域づくりを推進する。						
	取組の内容		①愛知県尾張北部地域でネットワークを組んだ団体が、カリキュラム案を活用し、各団体のエリアで、子育て支援教室や生活者としての外国人が必要な日本語教室を開催した。 ②各市町の外国人の状況に応じたプログラムを実施、教室外活動や体験を取り入れた。 ③一昨年度、昨年度の事業で学んだポートフォリオや日本語能力評価を取り入れ、成果をアピールしやすい工夫。 ④犬山では全回、江南でもできる限り託児を設け、子育て中の世代が参加しやすい工夫をした。						
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		①尾張北部5つの各日本語教育機関が、カリキュラム案を活用し、子育て支援をはじめ、生活に役に立つ日本語教育プログラムが組め、指導できるようになった。昨年度に加えて、今年度、大口で初めての開催ができた。(指導者が取組4に参加することで、いっそう、進んだ)。また、次年度を見据え、小牧市の会場でも初めて「生活者としての外国人のための日本語教室」を実施でき、外国人自助グループとも新しい連携に向けて、準備ができた。 ②「子育て」や「防災」などをキーワードに、仲間が集い、情報交換・共有することで、仲間意識が形成され、不安を安らげる場、共助の関係性ができ、ひいては地域で暮らす日本人との日常的共助の構築を目指した。これらのNWの広がりにより新たな学習者の参入があった。 ③新しい団体とのネットワーク構築ができた。特に、子育て支援の教室については、小牧市の中国人を中心とするグループと、また、保健センターとは、いっそう密接な関係性ができ、大学のゼミともプログラムを、合同で企画することができるようになった。						
	取組による日本語能力の向上		「伝えるために練習して、発表」の形が多かったので、学習者の日本語能力がかなり向上した。伝える時に「どんな表現をするか」を考えたことが語彙力を増やす事にもつながった。						
	参加対象者		尾張北部地域等に住む外国人、日本人	参加者数 (内 外国人数)		31人 (人)			
	広報及び募集方法		各日本語教室、国際交流協会、保健センター、病院等にポスターやちらし配布。保育園・幼稚園でのちらし配布。						
	開催時間数		総時間 23.5 時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		江南市教育委員会、江南市保健センター、江南市国際交流協会、江南市立宮田中学校、NPO法人トルシーダ、託児てんとうむし 他						
参加者の出身・国別内訳(人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		5	5	2		4			6
		ペルー(4), モンゴル(1), パキスタン(1), ミャンマー(1)							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名	
1	平成29年9月16日(土) 13:00~15:00	2	ふくらの家	11	自国の文化を伝えよう	親子で自国のイメージを話し合い共有して、伝え合う。	早瀬裕子 大塚ますみ	野木森菜月	
2	平成29年9月23日(土) 13:00~15:00	2	藤里国際ルーム	11	ダンスで自国の文化を伝えよう	親子でダンスを楽しみ練習。発表会に向けて、自己紹介や、自国の文化を紹介する練習	早瀬裕子 大塚ますみ	野木森菜月	
3	平成29年9月26日(火) 15:00~17:00	2	ふくらの家	12	紙芝居で、自国の文化を伝えよう	親子で、日本語で、紙芝居を読む練習	早瀬裕子 大塚ますみ	野木森菜月	
4	平成29年9月30日(土) 14:00~16:00	2	イオン木曽川店	15	「ダンスで自国の文化を伝えよう」発表会	自国の国のあいさつ・自国の文化紹介、ダンス、交流会	早瀬裕子 大塚ますみ	野木森菜月	
5	平成29年10月1日(日) 11:00~14:30	3	江南保健センター	10	「紙芝居で、自国の文化を伝えよう」発表会	自国の国のあいさつ・自国の文化紹介、紙芝居紹介、交流会	早瀬裕子 大塚ますみ	野木森菜月	
6	平成29年10月14日(土) 13:00~15:00	2	藤里国際ルーム	15	ふりかえりと次回に向けて	自分の日本語が、みんなに伝わったかをグループで検討。ちょっと留学に向けて、日本語でミーティング	早瀬裕子 大塚ますみ	野木森菜月	
7	平成29年11月8日(月) 10:00~12:00	2	ふくらの家	10	地域の人に自国の文化を伝えよう	プレゼンテーションの練習 質問の仕方、名刺づくり	早瀬裕子 大塚ますみ	野木森菜月	

8	平成29年11月19日 (土)10:00~12:00	2	藤里国際ルー ム	16	ちよつと留学	地域の人に、自国を親子でアピールする 地域の人にわからないことを質問する	早瀬裕子 大塚ますみ	野木森菜月 託児:河村光 恵 松山清子
9	平成30年1月13日 (土)13:00~15:00	2	藤里国際ルー ム	21	日本の学校制度を知 ろう	日本の教育システム・学校について 学校の事で不安な事、心配なことを話 し合う	早瀬裕子 大塚ますみ	野木森菜月 託児:河村光 恵 松山清子
10	平成30年3月18日 (日)13:00~16:00	3	藤里国際ルー ム	27	子どもの進路を考え る会	中学以降の進路について 先輩の話を聞こう 親子で進路を考える	早瀬裕子 大塚ますみ	野木森菜月 託児:河村光 恵 河村礼子、新 美 優、松山清子
11	平成30年3月19日(月) 10:00~11:30	1.5	ふくらの家	10	ふりかえりとこれから	日本語教室に参加して、どうだった か。 これからどのように参加したいか、考 える	早瀬裕子 大塚ますみ	野木森菜月

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第5回 29年10月1日】「紙芝居で自国の文化を伝えよう」発表会
見学者に、自分の国の事を伝えた。あいさつの言葉や、国の文化のさまざまな事を披露した。
手づくりの紙芝居や、資料で自分の国を紹介し、見学者との交流を楽しんだ。



【第5回 29年11月19日(土)

ちょっと留学:親子で地域の人に自分の国をアピールした。
聞いてくれた人と仲良くなり、地域でわからないことを質問する。地域の人とどんなことでもいので、話して仲良くなり、友達をつくる。



(2) 目標の達成状況・成果

・今回、初めて江南保健センター と、イオン木曽川店を会場に、教室開催する事ができ、これを機に今まで教室に参加したことのない、学習者が増えた。
・親子で参加できるプログラムを多く用意したので、多くの参加者が得られた。
・「日本の学校制度を知ろう」「子どもの進路を考える会」では、多くの教育関係者の協力が得られ、新しいネットワークも生まれた。参加者も多く、ニーズが多いことが伺えた。
・また、「進路を考える会」を開催するにあたり、「外国に繋がる子だからこそ」の視点を、参加者みなで、あるいは親子で共有できたことが、大きな成果となった。
・学習者が日頃、仕事や時間に追われる中、親子で立ち止まって考える機会になった感があり、今後の継続を望む声がアンケートに多かった。

(3) 今後の改善点について

・諸事情により、9回目と10回目の開催に時間が空きすぎていて、広報を再度直したので、開催期間・プログラムのあり方・順序等に工夫を要す。
・今回は、比較的就学者親子向けの企画だった。子育ての様々な支援を切実に求めているという、乳幼児向けの教室を希望する声が届き、次回は、乳幼児親子向けの教室にチャレンジしたい。

<取組2-4>

取組2	取組の名称		子育てや生活に必要な日本語教室3「生活に役立つ 大口日本語教室」						
	取組の目標		各市町の外国人の実情に合わせた、子育てを支援する日本語や、生活者としての外国人にとって必要な日本語教室を少なくとも3地域で協働開催し、①尾張北部地域に住む外国人が住みやすい環境をつくる。②子育て支援をはじめとする多分野の団体と新しく繋がることで、多文化共生の地域づくりを推進する。						
	取組の内容		①愛知県尾張北部地域でネットワークを組んだ団体が、カリキュラム案を活用し、各団体のエリアで、子育て支援教室や生活者としての外国人が必要な日本語教室を開催した。犬山(2か所、一部小牧)・大口・江南で開催。 ②勤務等の変化により、複数に渡る教室に参加をするこの地域の特性を生かし、各市町の状況に応じた個別のプログラムに加えて、合同で教室外活動や体験を用意などを工夫した。						
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		ネットワークを結ぶ尾張北部の各団体の日本語教室が、「カリキュラム案」の理念を教室運営に生かせるように、協議を重ねてきたが、「子育て支援とその人材づくり」というテーマにおいても、より一層の協議と情報共有ができ、「生活者としての外国人のための子育て支援」等、日本語教室運営や内容が、より充実するよう整備できた。また、会議の新たな参加者が、多文化共生・外国人の子育てについて理解し、協力者となり、他の組織等への派生効果も期待できる。大口では、今年度はじめての「生活者としての外国人」のための教室が実施できた。						
	取組による日本語能力の向上		生活に必要な日本語が上達した。体や病気、薬のことで、語彙がかなり増えた。						
	参加対象者		尾張北部地域等に住む外国人、日本人	参加者数 (内 外国人数)		16 (日本人4人)			
	広報及び募集方法		各日本語教室、国際交流協会、保健センター、病院等にポスターやちらし配布。保育園・幼稚園でのちらし配布。						
	開催時間数		総時間 6 時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		大口町民活動支援センター、サラダボールCo.、大口町教育委員会、シェイクハンズ、託児てんとうむし 他						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		3	8						
		イギリス(1人),							

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成30年2月24日(土) 19:00~21:00	2	大口ほほえみ プラザ	12	病気になったら、どうする?	①体の部位を覚えよう②病気の症状と病院の診療科目③薬には、どんなものがあるか?	三浦幸恵 山田美幸	土田富三子
2	平成30年3月3日 (土) 19:00~21:00	2	大口ほほえみ プラザ	11	薬局について勉強しよう	①先週の振り返り。症状について ②薬の種類・形態について③店員さんへの聞き方	三浦幸恵 山田美幸	土田富三子
3	平成30年3月10日 (土) 19:00~21:01	2	大口ほほえみ プラザ、マツ モトキョン	11	実際に売っている薬を見てみよう	①症状別の売り場の漢字が読めるか? ②実際の薬を見てみよう ③どんな薬が必要?	三浦幸恵 山田美幸	土田富三子
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第3回 30年3月10日】

「実際に売っている薬を見てみよう」

薬の棚に書いてある症状(比較的簡単な感じなので)を読んで、何の薬かを認識する。
種類別に書いてある表示を覚える
実際に自分が必要になる薬を見つけに行く。店員さんに聞いてみる練習「~~の薬は、どこにありますか？」



○取組事例②

【第2回 30年3月3日】

病気になったら、どうする？

- ・チラシを見ながら、薬にはどんなものがあるか？話合う。
- ・薬の種類言い方を学ぶ(錠剤・経口・塗布)
- ・薬剤師や店員さんへの質問の仕方



(2) 目標の達成状況・成果

- ・大口町で初めての「生活者としての外国人のための日本語教室」の開催。行動体験型に、学習者はとても興味をもってくれ、ほとんどの人のアンケートに「ずっと続けたい」の意見があった。
- ・実際にわかっているか、いないか、何を覚えたか？を振り返りシートで、毎回しっかりと把握できたので、評価もしやすくなった。
- ・今回が初めてなので、今後、連携先を見つけて共に教室開催ができるようにしたい。

(3) 今後の改善点について

- ・大口町で初めての「生活者としての外国人のための日本語教室」の開催。行動体験型に、学習者はとても興味をもってくれ、ほとんどの人のアンケートに「ずっと続けたい」の意見があった。
- ・実際にわかっているか、いないか、何を覚えたか？を振り返りシートで、毎回しっかりと把握できたので、評価もしやすくなった。
- ・今回が初めてなので、今後、連携先を模索したい。

<取組3>

取組3	取組の名称		多文化共生フォーラム2017 ～日本語教室×子育て支援のWネットワークで考える『地域づくり』						
	取組の目標		①行政の関係担当者や他分野の団体から10名以上(各市町2名)の参加を目指す。 ②ネットワーキングにより成果をあげている先進事例を聞き、ネットワークの必要性・重要性を認識してもらう。 ③フォーラム参加を機に、行政の本事業の取組への参加・協働を促す。 ④活動紹介・展示ブースの参加を昨年度フォーラムの11団体に加え、新規参加を含め、15団体以上を目指す。						
	取組の内容		①尾張北部地域でのネットワークづくりの5年間の事例報告を行い、成果・課題をそれぞれ、検証した。 ②ネットワークによる多文化共生子育て支援の先進地である兵庫県のNPO法人、にほんご豊岡あいうえおの会のメンバーによる文化庁委託事業の事例発表。 ③近隣の中国人自助グループの子ども達による舞踊の披露。日本語教室・日本語教育機関などの展示。 ④参加者が「子育て」「日本語教育」や「連携」等について、グループワークをし、内容を報告し、参加者全体で共有できた。						
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		①一般に対しては、「生活者としての外国人」の認識や、多文化共生の重要性を広めることになった。 ②行政の担当各課の参加により、本事業の取組のなかで、尾張北部各市町での協働事業の実現に一歩、近づいた。 ③新規に展示ブースに参加した他分野(特に子育て支援分野)の団体が、ネットワーク会議に加わり、ネットワークに一層広がりができた。従来からのグループも、「生活者としての外国人」のための日本語教育を考える素晴らしい機会になった。						
	取組による日本語能力の向上								
	参加対象者		尾張北部及近郊の日本語教育組織や個人、行政関係者、地域・市民活動団体、外国人キーマン、外国人コミュニティ組織、多文化共生に関心ある一般住民(外国人含)	参加者数 (内 外国人数)		97人 (8 人)			
	広報及び募集方法		ネットワークを組む尾張北部・及び近隣の市町の広報紙、各国際交流協会ニュースレター、新聞・地方紙への告知掲載、文化会館・公民館等公共機関でのポスター掲示、ちらし配布設置。						
	開催時間数		総時間 3.5 時間(空白地域 時 間)						
	主な連携・協働先		江南市国際交流協会ふくらの家、大口町セゾカフェ、大口まかせてネット、扶桑町多文化共生センター、(特活)犬山市活動支援センター、犬山国際交流協会日本語教室、小牧市国際交流協会、愛知華人の会、(特活)こどもと文化の森、桑田地区コミュニティ推進協議会、あいち防災リーダー会、(特活)多文化共生リソースセンター東海、東海日本語ネットワーク他						
参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
		4							2
		アメリカ1人、ペルー1人、日本89人							
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	河村	
1	平成29年11月26日(日) 13:30~17:00	3.5	犬山国際観光センターフ ロイデ	2	子育て支援の日本語教室とネットワーク	1. 尾張北部のネットワークづくりの経緯 2. 教室紹介 3. 事例紹介「あいうえお子育てネットの活動紹介」 4. 中国自助組織の発表と踊り、各グループの活動展示ブース見学 5. グループディスカッション 6. 内容の共有	事例報告者: 河本美代子、岸田孝子、勝間良枝 発表者: 松本里美、松本晃、後藤好美、西部昭夫、土田富三子、早瀬裕子、前田みどり、コーディネーター: 土井佳彦	太田梨理香 新美 優 長谷川弘樹 丸山佳菜 柴田恵津子 齋藤輝幸 託児: 河村光恵 河村礼子 松山清子	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【29年11月26日】

ネットワークづくりの経緯の報告と、尾張北部地域で、ネットワークを組んでいる各日本語教室の活動発表の様子



シェイクハンズ日本語教室の報告



大口町日本語教室の報告

○取組事例②

【29年11月26日】

にほんご豊岡あいうえおの「子育てを中心としたネットワークづくり」の事例発表を聞き、それを受けて参加者全員がグループに分かれて、ディスカッション。

多文化子育てに対する思いや、現在困っていること、感想なども話合った。



NPO法人にほんご豊岡あいうえおの「子育てネット」事例報



参加者全員によるグループディスカッション

(2) 目標の達成状況・成果

- ①行政の各関係担当者 11名、他分野の団体から6名の参加があった。特に保健センター、子ども未来園、教育委員会からの参加は、重要な話(活動報告)を聞いてもらえ、今後、協働を推し進める上で、手掛かりとなる可能性がある。十分に伝わった。(アンケート結果より)
- ②市長のあいさつのなかで、多文化共生の社会づくりを、積極的に推し進める由の発言があった。
- ③一つの事業を ネットワーク団体、みなで手作りにした実感の残るフォーラムだった。この体験が次なる教室開催・ネットワーク参加に繋がる可能性がある。

(3) 今後の改善点について

- ・全体的に盛沢山のないようで、時間に余裕がなく、押ししてしまったので、最後の意見共有が、十分にできなかった。(ネットワーク会議での振り返り)
- ・活動紹介・展示ブースの見学タイムも、もっと時間をとれば良かった(ネットワーク会議振り返り)
- ・犬山での開催ばかりでなく、他市町でも開催できると良い(ネットワーク会議振り返り)
- ・子育て支援をしている団体にもっと声をかけられると、良い。また、子育てグループとのコラボも視野に入れて。(ネットワーク会議振り返り)

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 29年9月16日】

オリエンテーションと対話型の日本語活動の講義・ワークショップ



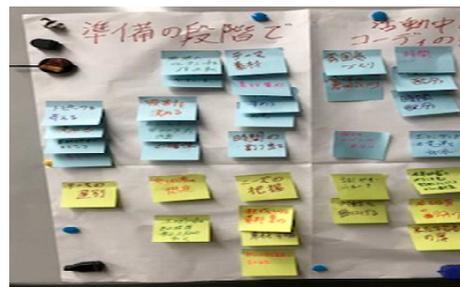
○取組事例②

【第6回 29年10月29日】

振り返り

ワークショップ(実践を終えての反省や改善点・良かった事などの洗い出し)

今後に向けて(これからの、それぞれの日本語教室での活かし方などの話し合い)



(2) 目標の達成状況・成果

・尾張北部地域のネットワークを組む団体が、「生活者としての外国人」の為の日本語活動を実践できるようになる為、積極的に参加した。各日本語教室や外国人支援機関で日本語学習支援活動に関わる受講者が共に研修に参加したことで、指導者間のネットワークも充実し、研修内容をそれぞれの教室で、広めることができた。

・研修終了後、大口町の教室(セレジヤカフェ)で、初めてカリキュラム案に基づく教室が開催できた。

(3) 今後の改善点について

・「教室活動の実施・見学と振り返り」を各教室1回に留まらず、実施できる事が望ましかった。数回実施することで、さらなる実践に向けて力を積むことにもなり、また、指導者同士の日頃のネットワーク充実も望める。

・会場も、各エリアで持ち回りにすることで、より多くのボランティアが参加しやすくなるのでは、との意見も多かった。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

・尾張北部3市2町での日本語教育機関で培ってきたネットワークを横軸に、28年度は、外国人生活者の日本での子育てや教育環境向上のため、子育て支援
NPO・支援者等、多分野とのネットワークづくりを推し進めた。しかし、温度差があり、他分野・自治体等の理解が薄く、ネットワークにまで至らないエリアもある。特にそのエリアで教室を開催し、「生活者としての外国人のための日本語教育」を拡充する。また、自治体との連携も強化し、尾張北部地域の多文化共生の子育て支援ネットワーク構築にいつそう努める。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

ネットワーク会議と運営委員会の振り返りの意見より
・フォーラムの場などには、行政や他分野からの人の参加が多く見られた。少しづつではあるが、世の中関心があつまってきている。本事業を5年連続で継続しているという事実が、尾張北部地域で「生活者としての外国人」の概念を広げられてきている。今回は、大口町で始めて教室が開催されるに至った。小牧市でも、継続的な教室を望む声があり、次年度へつなげられる見込みとなった。尾張北部のネットワークに広がり期待できる。また更に、あたらしいネットワークのチャンスでもあり、色々な人が繋がる事で、広がりだけではなく厚みのある(NPO+行政+子育て+教育+防災+医療など)ネットワークに育ちつつある。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

保健センターの保健師・栄養士に教室での講師依頼を重ねるうち、保健センター全体が「生活者としての外国人」への理解を深めて、以来、外国人親子の情報や、日本語教室への紹介が上がってくるようになった。また、防災訓練の通知が日本語教室にも直接届くようになり、各分野でも外国人の存在が少しずつではあるが、クローズアップされてきた。託児グループも、日本語教室を担当する事で、多文化の意識を持ち活動を広げた。やさしい日本語についても学びを希望している。メンバーも増えたとの報告もある。こういう連鎖がまた新たな連携を呼び、外国人自身がエンパワメントでき、日本人共に暮らしやすい地域に、一歩近づいた感がある。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

<周知・広報>
学校や保育園にチラシを配っても、なかなか、参加に至らない事実があり、キーパーソンに興味をもってもらおうよう、また、日頃からキーパーソンを見つけたら、一緒に活動するなど、身近かになるよう、心掛けた。
<事業成果の地域への発信>
今年度まではフォーラムという形で、啓発と成果発表をしてきたが、開催地域も含め、思い切ったプランの成果発表もあっても良いのでは。次年度は特に、プランBでの最終年度にあたるので、いままでとは違う形での成果発表になると良い。

(5) 改善点、今後の課題について

・「尾張北部のネットワークづくり」というキーワードで、「生活者としての外国人を応援する日本語教室」「普及啓発」「研修」の取組をしてきたが、各教室は、行政からの委託などもあり、活動が手一杯という状態のところもある。
・「緩やかで、豊かなネットワーク」を今一度、考えながらの事業展開が必要。
・また、外国人を一方的に応援するだけでなく、双方がエンパワメントできるような、地域日本語教室にしていくには、資金も含めて地域の企業などとも協働できる仕組みが必要と考える。

(6) その他参考資料